

タイトル	自分の庵
ポーランド語のタイトル	(Samo)tnia
テーマ *	c
名前	モル ノヴィツカ
ポーランド語の名前	Mor Nowicka
学校名 * 2	ワルシャワ大学日本学科
学年	3 年生
日本滞在歴	なし

* a. 異文化理解 b. 現代の諸問題 c. 私の大切なもの d. 私からの未来へのメッセージから選択

皆さんは「精神」と聞いて何を思い浮かべますか。私にとって精神は、ある庵ととても強い関係があります。今日はその庵についてお話ししたいです。

子供の頃は、よく山へ行って、様々な体験をしたのですが、どういうわけか、大人になってから山へ行くことをやめてしまいました。それで去年、友人が私に「タトラ山脈へ一緒に行かない？」と聞いた時、もちろん「うん、行こう！」とワクワクしながら答えました。

旅行の前、山は自然が豊かで、静かなところだと思っていました。ところが山のふもとに着くと、思っていたより人が大勢いるではありませんか。「山がにぎやかだ」と言っでは変ですが、それほど多くの人が集まっていたのです。

実は、群衆が嫌いな私はとてもがっかりしました。山頂への列に二時間も並びながら、「なぜ？」と思いました。ハイキングはこんなに人気になったのかなあ？ それとも、子供の頃は群衆を気にしていなかったのかなあ？

しかし、ここで、私の考え方を大きく変える出来事が起こりました。友人が修道士アルベルトの庵と言うものを私に見せてくれたのです。その山道沿いの庵はかつてフランシスコ会修道士アルベルトが暮らしていた小屋でしたが、今は博物館になっていて、見学することができました。

その庵はまったく目立たないものでした。すごく狭くて、小さいベッドが小屋の半分を占めていました。単なる木造の小屋にすぎず、庵の中は空っぽでしたが、驚くほど静かでした。不思議なことに、しばらくの間、私はその静けさに完全に集中することができました。あの時に感じたのは、たとえるなら、時間の外に出ることだったと思います。見学している人たちと一緒に中を見るうちに、次第に心が落ち着いてきました。庵を出て山を見ると、まだ賑やかではありましたが、美しさを実感しました。山の不変性、強さを、再び感じるすることができました。

それ以来、街に帰っても、修道士アルベルトの庵についてよく考えるようになりました。実際、最近ではストレスを感じると、いつもあの庵を思い出します。なぜなら、私にとってあの庵は精神の象徴だからです。

皆さん。精神は大切ですね。心が荒れている人は、美しい山に行っても、美しいものを見ることができません。しかし、精神のある人は、行列でも、ラッシュアワーでも、そこにある美しさを見ることができます。私はまだ神経質で時々心が荒れそうになりますが、そんな時はあの庵を思い出し、あの時に感じた精神を保つよう心がけています。ですから皆さんも、ぜひ心の中に何か自分の庵を持ってみてください。

Streszczenie (60-70 słów)

Opowieść o tym, jak po latach wróciłam w góry. Okazały się o wiele bardziej zatłoczone niż dawniej, co początkowo mnie zasmuciło. Trafiłam jednak także na pustelnię brata Alberta: mały drewniany domek pośród chaosu, który skłonił mnie do refleksji nad koniecznością pielęgnowania hartu ducha i wewnętrznego spokoju. To doświadczenie nauczyło mnie, że nawet kiedy góry są zatłoczone, można dostrzec w nich piękno i, dbając o siebie, odnaleźć własną wewnętrzną „(samo)tnię”.